デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 14 日（水） 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

■ 日経平均株価は 67,744 円 29 銭（前日比 33 円 23 銭安、-0.05%）で 5 日続落した。前日の急落への反動で後場中盤には 68,408 円 14 銭（同 630 円高）まで上昇したが、日本時間 14 時の蘭 ASML 決算を機に半導体関連が失速し、終盤には 67,533 円 10 銭（同 244 円安）まで押された。

■ TOPIX は 4,096.78（13.89 ポイント安、-0.34%）と 3 営業日ぶりに反落し、日経平均より下げが大きかった。前日 13 日は日経平均が 1,253 円安でも TOPIX が上昇するという逆の構図だった。値がさ半導体株とファーストリテイリングという二つの「個別要因」が、二日続けて指数と中身を乖離させている。

■ 業種別は 33 業種のうち上昇 14・下落 19。原油高を映した石油・石炭製品が上昇首位、非鉄金属と卸売（商社）も買われた一方、日銀の 10 月利上げ見送り観測が強まったことで銀行が下落率首位、証券・商品先物、精密機器が続いた。金利低下と銀行株安が素直に連動した。

■ 注目材料は日本時間 14 日 21 時 30 分発表の米 9 月 CPI（市場予想：総合前年比+3.6%、コア同+2.5%）と、15 日の TSMC 決算・法人説明会。中東ではイラン革命防衛隊による商船攻撃でホルムズ海峡の通航懸念が再燃し、原油高が日本株とインフレ見通しの双方に重くのしかかる。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均株価	67,744.29 円	-33.23 円	14 日終値。-0.05%、5 日続落。始値 67,942.23／高値 68,408.14／安値 67,533.10
TOPIX	4,096.78	-13.89	14 日終値。-0.34%、3 営業日ぶり反落
東証プライム売買代金	7 兆 4,507 億円	-5,133 億円	14 日概算。売買高 21 億 8,982 万株。前日は 7 兆 9,640 億円
値上がり／値下がり	602／889	変わらず 55	14 日大引け集計。上昇 38.9%・下落 57.4%
新発 10 年債利回り	2.985%	-0.010%	14 日 15 時時点。前日 2.995%
新発 2 年債利回り	1.905%	+0.003%	14 日 15 時時点。前日 1.902%
ドル円	158.11〜158.51	—	14 日東京時間のレンジ（円）。10 時は 158 円 42 銭、21 銭の円安
ユーロ円	177.24〜177.59	—	14 日東京時間のレンジ（円）。10 時は 177 円 49 銭、48 銭の円安
NY ダウ	51,670.10 ドル	-180.45 ドル	13 日終値。-0.35%、4 営業日ぶり反落
S&P500	7,805.45	-1.79	13 日終値。-0.02%
ナスダック総合	27,204.38	-41.52	13 日終値。-0.15%、続落
SOX 指数	—	-0.23%	13 日終値。5 日続落、5 営業日で 8%超下落（年初来は 70%超高）
米 10 年債利回り	5.21%	-0.03%	13 日終値。2 年 4.80%、5 年 5.00%、30 年 5.56%
韓国総合株価指数	6,008.81	-26.54	14 日終値。-0.44%。寄付は 26.73 ポイント高
上海総合指数	3,767.23	-0.88%	14 日終値
WTI 原油 11 月限	94.68 ドル	+0.94 ドル	13 日終値。+1.00%、3 日続伸。14 日午前は一時 95.41 ドル
NY 金 12 月限	4,186.67 ドル	-3.93 ドル	13 日終値。-0.09%

3．株式市場

前場の戻り、14 時の反転

寄り付きは 164 円 71 銭高の 67,942 円 23 銭。前日に 1,253 円安と急落した反動で、売られすぎた半導体関連に買い戻しが入った。前引けは 415 円 61 銭高の 68,193 円 13 銭、後場中盤には 68,408 円 14 銭まで上げ幅を広げた。ところが日本時間 14 時、蘭 ASML が 7-9 月期決算を発表すると様相が変わる。売上高 116 億 6,200 万ユーロは四半期ベースで過去最高、10-12 月期見通しも 142 億〜152 億ユーロと強く、経営陣は 2028 年まで供給が需要に追いつかないとの見方を示したが、東京市場では東京エレクトロンやレーザーテックが下げに転じた。好決算そのものではなく、すでに織り込まれていた期待の水準が高すぎたことへの反応である。終盤には 67,533 円 10 銭まで売られ、引けにかけて一時プラスを回復したものの維持できず、33 円 23 銭安で 5 日続落となった。

支えたのはファーストリテイリング一社

寄与度ではファーストリテイリングが単独で 165 円 86 銭のプラスと最大の支え役になり、ソフトバンクグループ（33 円 17 銭）、リクルートホールディングス（28 円 32 銭）、フジクラ（26 円 29 銭）、信越化学工業（17 円 36 銭）が続いた。マイナス寄与は東京エレクトロンが 159 円 28 銭と突出し、オリンパス（36 円 88 銭）、キオクシアホールディングス（34 円 69 銭）、テルモ（19 円 96 銭）、イビデン（16 円 86 銭）が並ぶ。個別では FIG（4392）が半導体メーカー向けモバイルマニピュレータの開発を材料にストップ高の 990 円、大黒天物産（2791）は第 1 四半期の大幅減益で 3,845 円（360 円安）と急落した。

物色は資源へ、売りは金融へ

業種別は上昇 14・下落 19。原油高を映した石油・石炭製品が上昇率首位で、非鉄金属と卸売（商社）が続いた。下落は銀行が最大、次いで証券・商品先物、精密機器、空運。中東リスクを織り込む資金が資源へ向かった。

4. 本日の主題：横ばいが隠したもの――二日で入れ替わった日経平均と TOPIX の乖離

13 日と 14 日は、同じ「日経平均の下落」でありながら中身が正反対だった。13 日は日経平均が 1,253 円 40 銭安(-1.82%)と急落する一方、TOPIX は 5.86 ポイント高と小幅続伸し、値上がり銘柄は 1,137 で全体の 7 割超、33 業種中 26 業種が上昇した。指数を押し下げたのは東京エレクトロン(450 円 04 銭安寄与)、ソフトバンクグループ(398 円 86 銭)、アドバンテスト(261 円 05 銭)という値がさの半導体・AI 関連だった。

14 日はこれが反転した。日経平均は 33 円 23 銭安とほぼ横ばいだが、TOPIX は 0.34%下落、値下がり銘柄は 889 で 6 割弱、上昇業種は 14 にとどまる。裾野は 13 日より弱い。それでも指数が横ばいで済んだのは、ファーストリテイリング一社の 165 円 86 銭のプラス寄与が東京エレクトロンの 159 円 28 銭のマイナスをほぼ打ち消したためだ。寄与度上位 5 銘柄は約 271 円、下位 5 銘柄は約 268 円(筆者算出)。

つまり、いまの日経平均の前日比は市場の体温計として機能していない。相場を読むには騰落幅より TOPIX の方向、騰落銘柄数、上昇業種数の三点を先に見るべきだろう。とりわけ 14 日は銀行が下落率首位であり、金融・内需の比重が高い TOPIX の下落は、半導体の需給とは別の、より広い地合いの変化を示している可能性がある。

5. 債券・金利

長期国債先物 12 月限は 124 円 85 銭で始まり、高値 125 円 05 銭・安値 124 円 80 銭をつけて 124 円 99 銭で引けた(前日比 6 銭高)。新発 10 年債利回りは 2.985%と前日の 2.995%から 1.0 ベーシスポイント低下。一方で 2 年債 1.905%(前日 1.902%)、5 年債 2.329%(同 2.325%)はわずかに上昇、20 年債は 3.844%(同 3.847%)と小幅低下。10 月会合の見送りが織り込まれても短中期が下がらない形は、市場が 12 月以降の利上げを外していないことを示す。米 10 年債は 13 日、0.03%低下の 5.21%。

6. 為替・商品

ドル円の東京時間のレンジは 158 円 11 銭～158 円 51 銭、午前 10 時は 158 円 42 銭で前日比 21 銭の円安、ユーロ円は 177 円 49 銭で同 48 銭の円安。円売りの背景は原油高による交易条件の悪化と、日銀が 10 月 29～30 日の会合で利上げを見送るとの観測である。市場が織り込む 10 月の利上げ確率は約 10%、12 月会合までに動く確率は 88%。商品では 13 日の WTI 原油 11 月限が 94.68 ドル(0.94 ドル高)と 3 営業日続伸し、14 日午前には一時 95.41 ドル。ホルムズ海峡の通航懸念が再燃している。NY 金 12 月限は 4,186.67 ドル(3.93 ドル安)。

7. 海外市場の動向

13 日の米国市場は 3 指数とも小幅安。NY ダウは 180.45 ドル安の 51,670.10 ドルと 4 営業日ぶりに反落、S&P500 は 1.79 ポイント安の 7,805.45、ナスダック総合は 41.52 ポイント安の 27,204.38。SOX 指数は 0.23%安で 5 日続落、5 営業日で 8%超下げたが年初来では 70%超高を保つ。売り材料はブロードコム CEO が業界への資金流入を投機になぞらえた発言と、中国メモリー大手 CXMT の技術進歩報道による競争懸念。銀行決算はまちまちでシティは増益でも 5.6%安。14 日のアジアも東京同様に引けにかけて上げ幅を削り、台湾加権指数は 14 時 24 分の 574 ポイント高から 284.52 ポイント高の 48,625.83 で終了、韓国総合株価指数は寄付の 26.73 ポイント高から 26.54 ポイント安へ沈んだ。

8. 直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金
10 月 8 日(木)	69,042.11	-993.60	4,091.46	3.070%	7 兆 6,133 億円
10 月 9 日(金)	69,030.92	-11.19	4,104.81	3.006%	7 兆 8,454 億円
10 月 12 日(月)	休場	—	休場	—	—
10 月 13 日(火)	67,777.52	-1,253.40	4,110.67	2.995%	7 兆 9,640 億円
10 月 14 日(水)	67,744.29	-33.23	4,096.78	2.985%	7 兆 4,507 億円

9. 総括と注目点

5 日続落という事実と 33 円という下げ幅の小ささは、どちらもこの日の相場を正確には説明しない。実態は、半導体関連の自律反発が ASML 決算を機に消え、代わりに銀行中心の金融・内需が売られて裾野が弱含んだ一日である。売買代金が 7 兆 9,640 億円から 7 兆 4,507 億円へ減ったのも、米 CPI と TSMC 決算を前にした手控えが主因だろう。日経平均の 7 万円回復には値がさ半導体株の立ち直りが、TOPIX には日銀の政策経路の落ち着きが要る。

- 米 9 月 CPI(日本時間 14 日 21 時 30 分):市場予想は総合が前年比+3.6%、コアが同+2.5%。コアが予想を大きく上回れば年内追加利上げ観測が再燃し、米長期金利とドル円の双方を押し上げかねない。
- TSMC の 7-9 月期決算と法人説明会(15 日):ASML の「2028 年まで供給が需要に追いつかない」という見方が受注と設備投資計画で裏づけられるか。東京エレクトロンなど寄与度の大きい銘柄の方向を左右する。
- 日銀金融政策決定会合(10 月 29～30 日):見送りはほぼ織り込み済みで、焦点は新たな経済・物価見通しと 12 月に向けた情報発信。銀行株とドル円は会合より文言に反応しやすい。
- 中東情勢と原油:ホルムズ海峡の通航懸念が続く間は、石油・石炭製品や商社への資金流入と、インフレ再加速による金利上昇圧力が同時に進みやすい。20 日の 20 年債入札が超長期の耐久力を測る場となる。

脚注

・東証プライムの売買代金・売買高は 17 時台時点で確報が未公表のため概算値。騰落銘柄数は株探の大引け記事(14 日 15 時 32 分配信)602・889・55 を採用。トレーダーズ・ウェブは 604・892 と報じ差があるが、値下がり優勢という方向は TOPIX の下落と上昇業種 14 に整合する。

・寄与度は大引け版。上位・下位各 5 銘柄の合計(プラス約 271 円、マイナス約 268 円)と相殺の記述は筆者算出。WTI 原油 11 月限は 13 日終値 94.68 ドル(93.74＋0.94 で検算一致)。NY 金は 12 月限の通常取引終値 4,186.67 ドルを採用したが別媒体は 0.32%安と報じ差異あり。米 10 年債は 5.21%を採用、別系統では 5.22%。

・香港ハンセン指数は確定値が取得できず 14 日 14 時 24 分時点の値。新発債利回りと国債先物は単一出典(フィスコ)。新発 30 年債と 5 年利付国債入札結果は確認できず「—」。10 月 12 日はスポーツの日で東証は休場。本レポートは生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆した。主な出典:株探、トレーダーズ・ウェブ、フィスコ、ロイター、日本経済新聞、ブルームバーグ、みんかぶ、ダイヤモンド・ザイ、共同通信、聯合報、財務省、Trading Economics。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。